



楼閣が描かれた絵画土器

～もう一つの破片～

時代：弥生時代

調査名：唐古・鍵遺跡 第47・77次調査

発見年：1991年（第47次）・2000年（第77次）

本町で保管している唐古・鍵遺跡の出土品は、10,000箱（W40×D60×H15）を越える膨大な量があります。過去には、年間500箱以上の遺物が増加した年もあり、現在再整理によって内容を再確認しています。その際に新たに確認できる重要遺物もあります。

今回の逸品では再整理によって見出された新たな楼閣絵画土器をとりあげます。

再整理で見つかった絵画土器は、第47次調査の環濠上部の凹地から出土したものです。この土器には楼閣の屋根を思わせる左下がりの斜線13本以上と柱1本の線刻が残存していました。

屋根の表現を斜線のみで描く建物絵画は他の土器に例がみられず、土器胎土^{たいど}や調整手法などから、1991年に発見された別の楼閣が描かれた絵画土器片と同一個体と考えられます。斜線の本数や間隔が異なることから、すでに知られている楼閣絵画とは別に、もう一つの楼閣が描かれていた可能性が高く、この壺には楼閣が2棟と寄棟大型建物1棟の計3棟が描かれていたこととなります。

このことにより、唐古・鍵集落には大型建物を中心に2棟一対の楼閣が建っており、これらの建物群は唐古・鍵集落の首長居館の様相を示していた可能性が高いと考えられます。

